【公表の参考様式（管理機関用）】　　別添２

令和６年９月２０日

令和５年度　特別の教育課程の実施状況等について

北海道		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
東川町立東川小学校（外４校）	東川町教育委員会	公立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
東川町立東川小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu
東川町立東川第一小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu
東川町立東川第二小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu
東川町立東川第三小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu
東川町立東川中学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu

※必要に応じて行を追加すること。

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
東川町立東川小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu	
東川町立東川第一小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu	
東川町立東川第二小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu	
東川町立東川第三小学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu	
東川町立東川中学校	https://higashikawa-town.jp/portal/manabu	

※必要に応じて行を追加すること。

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

（・計画通り実施できている）

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

※（１）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

（・実施している
・実施していない）

＜特記事項＞

年２回程度、各学校での特別の教育課程（新教科 Globe）の取り組みについて紹介する「Globe　News」を町広報と一緒に全戸配布し、情報提供を行っているほか、毎年、Globe に関する保護者・地域へのアンケート調査を行い、取り組みについて評価をいただいている。

また、年１回有識者等で組織される運営指導委員会を開催し、取り組みに関する意見や評価をいただている。

３．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図ることができるよう「新教科 Globe」の実践に取り組んでいる。

成果としては、児童生徒の感想から「英語が将来自分の役に立つ」「他国の文化を知りたい」など、Globe が児童生徒にとって有益な学習であると実感しているようである。小学校では特に「Globe が好き」「世界の方と関わるのが好き」という意見が年々増加し、多文化共生の素地が育まれていることが分かる。

特に小学校では「Globe　が好き」「世界の方と関わるのが好き」と肯定的に捉えている児童数が増加しており、多文化共生の素地が育まれてきていることが分かる。

「保護者」の方は,「英語力を気にせず」「国は関係なく」「国籍は問わず」など、他国の方とコミュニケーションや仲よくなれる取組として Globe に期待しており、Globe の目的を理解してくれている。また、「地域アンケート」では, Globe の取組が浸透してきたということが分かる。

経年変化を把握するために令和４年度から実施している大学生を対象としたアンケートでは、「英語で会話することへの抵抗が少なかった」「東川町での外国の方との交流が楽しかった」など、Globe が生涯に渡ってどのような影響を及ぼしているかが明らかになってきた。

一方で、Globe 創設から８年が経過し、社会や子どもの生活環境の変化等に応じたカリキュラムの工夫・改善が必要となった。そのため、多文化共生との関わりにおいて「少数民族」「LGBTQ＋」の視点をさらに取り入れること、地域への理解をさらに深めるため、農業科について教科横断的な学びの２点について、工夫・改善に取り組んでいく。これらの視点による教育課程の工夫・改善を行い、多様性を尊重し、地域社会に貢献できる人材を

育成していきたい。
　また、中学校進学時に同学年内での差が広がらないよう、小小の合同学習などを引き続き実施したい。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係
　平成３０年度から、４小学校の６年生にGTEC－junior を、中学校の全学年に英検ＩＢＡを実施し、経年変化を確認している。（令和４年度から小学校は英検ＥＳＧに移行）
　英検ESGの結果から、小学校では２領域（聞くこと、読むこと）とも９割の児童が９０点以上を取得し、英語の理解度が非常に高いことが理解できる。
　また、中学校では、１年生・２年生が英検４級合格レベル、３年生が英検３級レベルに達しており、受検率が50%を超えるなど興味・関心の高まりを実感している。
　課題としては、小学校５年生になると読むことや書く機会も増え、苦手意識をもつ児童が増えている。楽しく読み書きを身につける工夫や、個への支援が必要である。
　中学校では「自分の考えを英語で書けない」実体が上げられた。考えの形成は、全ての教科等において育てていきたい。

４．課題の改善のための取組の方向性
①カリキュラムのさらなる改善と実践、地域教育資源の活用
・ＩＣＴを活用した授業の工夫
・他校及び異校種間 の 交流活動の促進
・日本語学校・福祉専門学校・「東川プロフェッショナル」
※アンケート実施（児童の実態把握、カリキュラム改善に生かす）
②他教科・他領域との横断的な学び
・教科横断的な学びの推進 （農業科 及び他教科・領域等 と、 Globe 別葉の 効果的な活用と改善
・日本文化や国際的視野を他教科・他領域でも意識して扱い、教科等横断的な授業の実践
③学校間交流・異校種間交流の充実
・小学校の同じ学年同士の合同授業
・中学校と小学校、小学校と高校、高校と中学校、高校と日本語学校など、多様な交流